

内科・糖尿病内科

担当医師 井口昭久教授

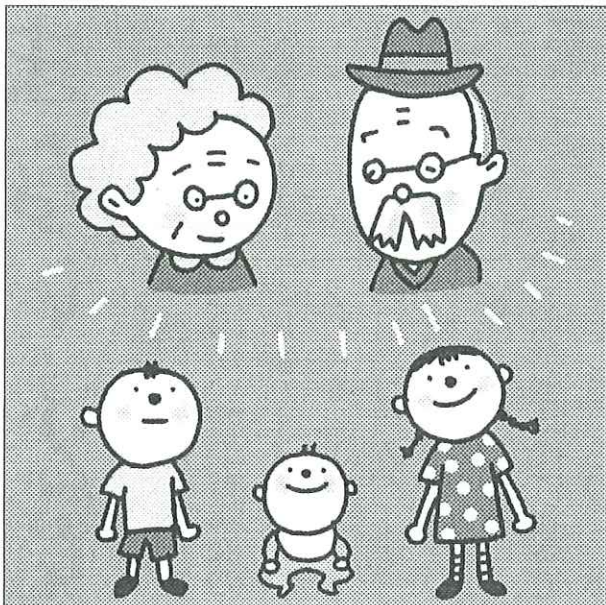
の記事が掲載されました。

6月13日 朝日新聞 朝刊

(毎月1回掲載中)

老年学

祖父母 意外に大切



The Asahi Shimbun

孫に対する祖父母の役割は、子供と親の関係に比べてあいまいである。アメリカでは、そんな孫と祖父母の関係を調べている研究者たちがいる。彼らの研究によると、祖父母の役割は意外に大切であることが分かってきたという。「そこに居る」という役割があるそうだ。

成人したばかりの孫たちを調べたところ、彼らの考え方や道徳心は祖母の影響を受けて形成されていることが多いこともわかったと

愛知淑徳大学教授
医師

井口 昭久

いう。祖父母は人格形成の礎ともなるのである。孫との関係が最も親密なのは祖母であり、父方の祖父は、親密な関係になる可能性は比較的低いとも報告している。

私には3人の孫がいる。最も新しい孫は生後7カ月である。生後4カ月の頃にお宮参りをした。通常の赤ちゃんは生後1カ月でお宮参りをする。だから他の赤ちゃんに比べて大きかった。写真館で、「大きいね」と言われた。彼のパパは答えたそうである。「うちのはもうトシですから」。生まれて4カ月でもう「トシ」になってしまった。2番目に若い孫に、私が「何歳？」と訊くと、「5歳だよ。何でいつも忘れるの?」と答える。一番のトシは、小学校2年生になった女の子である。数年前まで一番若かった。彼女も生後7カ月、5歳を過ぎ、そして今8歳。

みな可愛い。私は彼らの父方の祖父に当たるけれど。